



引張ねじり複合負荷試験

引張、ねじりの動的負荷を同時に付与した試験を実施いたします。

試験技術の概要

● 引張、ねじりを同時に付与した力学試験

静的試験では「ねじり負荷開始後、1秒後に引張負荷を加える」などの複雑な制御が行えます。引張、ねじりの動的負荷を同時に加える疲労試験が実施できます。疲労試験では、引張、ねじりの各周波数を変えた複雑な制御も可能です。

試験概要

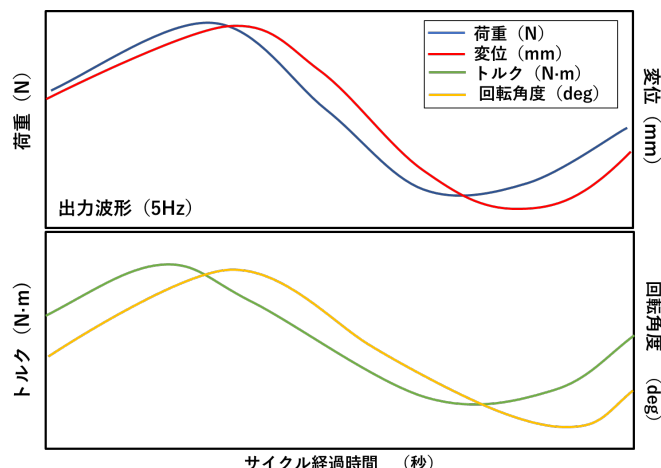
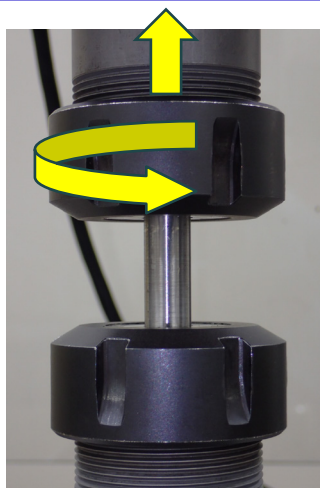
試験環境	大気中(室温)		大気中(-60℃~250℃)
疲労試験機	3kN二軸疲労試験機	10kN二軸疲労試験機	100kN二軸疲労試験機
最大試験荷重容量	± 3kN	± 10kN	± 100kN
最大試験トルク容量	± 25N・m	± 100N・m	± 1000N・m

試験方法の例

● 引張ねじり疲労試験

ねじりの動的負荷と引張の動的負荷を同時に加えます。引張応力とねじり応力の比は任意に設定できます。

(掴み径: 1.5 ~ 25 mm)

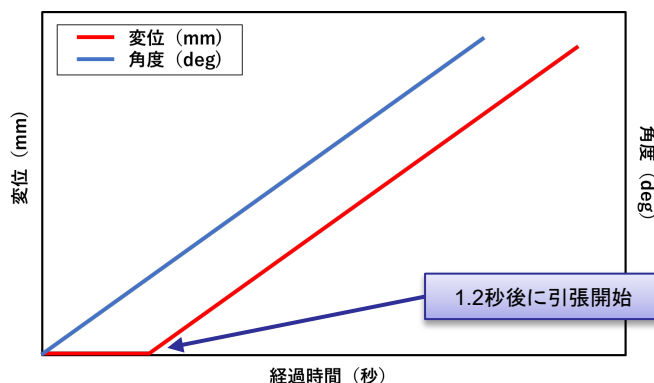
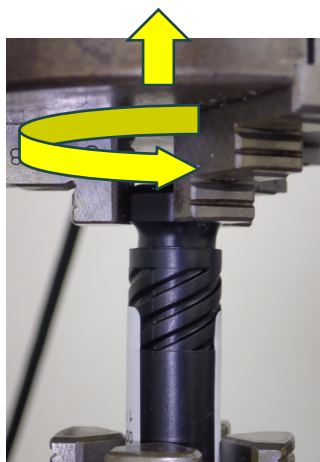


ねじりの動的負荷と引張の動的負荷を同時に加えた試験の例

● 容器の蓋開け試験

容器の蓋をねじりつつ引き上げて開け、最大トルクと最大荷重を測定します。一定の速度でねじり負荷を加えながら引張負荷を与えて蓋を開けます。

(最大16回転)



容器の蓋を振じりながら開ける試験の例



JFE テクノリサーチ 株式会社

<https://www.jfe-tec.co.jp>

0120-643-777

Copyright ©2022 JFE Techno-Research Corporation. All Rights Reserved. 本資料の無断複製・転載・webサイトへのアップロード等はおやめ下さい。